

休日には、公園、木蔵、レストランとぶらぶらと出かけることが多い。中でもお気に入りの場所は、お茶の市場で新しい茶葉を探し、リフレッシングの楽しみ。



1975年生まれ、31歳。01年、IT業界大手ウェブクルーズ社。05年2月、ウェブソリューション企業を行う株式会社(株)ウェブクルーズに入社。現在は同社で、社長に就任。近頃、中国には中国人のモバイルインターネット・ショッピング・サイトの発展やアジアの市場への進出も目撃し、プライベートでは三杯の友。www.na-tec.cn/

スムーズに進まないからこそ ビジネスをより体で感じられる

真崎英彦さん

網紀信息技术(上海)有限公司



OFF

香りを楽しんでから味わう烏龍茶。
試飲して気に入った茶葉を購入



日本ではずっとIT企業に勤めていたのですが、3年半前から北京への出張が増え、そのころから中国でのIT分野の可能性を強く感じていました。その後、上海で投資案件が決まったのを機に外資系企業を設立しました。事業は主に2つ。一つはウェブサイトの作成など中国国内の日系企業向けのウェブソリューション。日本で得た経験とノウハウを生かしたサービスを提供しています。もう一つは日本国内へのオフショア開発システム開発。昨年はこちらが業務のメインでしたが、今年はその比重が伸びています。

日本と中国での仕事の違いとしては、日本のクライアント企業の多くは社内IT部門を抱えているので、業者は初めから専門性の高い仕事に入ります。一方、上海では、ITの専門家ではない日本人駐在員が窓口になるので、一般的な説明から始まる。しかも社内には数しかない駐在員は忙しくてなかなかつかまらない。まったくスムーズには進まないですよ。でも、そうやって頑張っている相手に信頼されて、ビジネスが動き出していく。その感覚は、専断として日本にいたら体験できなかったことでしょう。



ON

スタッフとの一体感を求めて社長室はガラス張り、IT企業らしく、オフィスは非断室。

お茶は「中国人社長が使っている感じが気に入って」購入した専用茶室で楽しむ。

